

海田町横断歩道橋長寿命化修繕計画

令和 7 年 1 1 月

海田町建設課

目次

1. 横断歩道橋の現状と課題

2. 横断歩道橋の維持管理の基本的な考え方

- 2.1 対象施設管理の基本方針
- 2.2 対象施設の分類(グループ分け)
- 2.3 管理基準
- 2.4 点検方法・点検頻度

3. 計画期間

4. 対策の優先順位の考え方

5. (対象施設)の状態等

- 5.1 診断結果・対策内容・実施時期

6. 長寿命化修繕計画による効果

7. 新技術の活用

8. フォローアップの実施

9. 撤去

10. 対策内容と実施時期

1. 横断歩道橋の現状と課題

海田町の管理する横断歩道橋は、定期点検等により、損傷状況を把握していますが、これまでと同様に、損傷が顕在化した後に大規模な修繕を行なうことや横断歩道橋の架替えを行う場合、莫大な費用が必要になります。

しかし、社会資本関連の予算が減少されつつある昨今の状況では、適切な維持管理の継続が困難となる恐れがあるため、限られた予算の中で莫大な費用を要する従来どおりの維持管理手法から、計画的な維持修繕計画を策定した手法に改める必要がある。

2. 横断歩道橋の維持管理の基本的な考え方

2.1 横断歩道橋管理の基本方針

横断歩道橋の個別施設計画の策定にあたっては、診断結果を踏まえた適切な措置を行うことで、施設の長寿命化や維持修繕費のライフサイクルコスト削減を目指す。

2.2 管理道路の分類(グループ分け)

道路施設	現況(令和 6 年 3 月現在)
道 路	L=86.3km
橋 梁	80 橋
路 線	338 路線
横断歩道橋	1 橋



2.3 管理基準

省令に基づく健全性の診断区分に対応するため、横断歩道橋の損傷状況を 5 段階(I (良)～IV (悪))で評価することになっています。

2.4 点検方法・点検頻度

点検の実施

海田町が管理する横断歩道橋の損傷状況を把握するため、横断歩道橋点検を実施しています。

点検の頻度

点検は、5年に1回行なうことを基本としています。地震時や異常気象等によって横断歩道橋が予期せぬ状況にさらされた場合には緊急点検を実施します。点検結果、異常が発見された場合は、詳細な調査を実施することとしています。

点検の結果

点検により、横断歩道橋の健全度を把握し、補修の必要がある場合は、修繕箇所の優先順位を決定し、計画的に順次補修を実施していきます。

3. 計画期間

3.1 計画期間

当該個別施設計画の計画期間は、平成31年度から令和10年度までの10年とする。

なお、定期点検により新たに発見される変状に対しては、見直し(フォローアップ)を行います。

4. 対策の優先順位の考え方

定期点検結果を踏まえ、効率的な維持及び修繕が図られるような措置を講じます。

次回点検までに補修を行う必要のある箇所について、修繕計画を策定します。特に重篤な損傷・第三者被害が発生する要因のある損傷箇所を優先して計画します。

5. (対象施設)の状態等

5.1 診断結果

海田町横断歩道橋保全計画(平成 31 年度～令和 10 年度)

No	橋梁名	所在地	橋種	橋長	幅員	架設年度	最新点検年度	国土交通省診断区分
1	つくも横断歩道橋	つくも町	鋼橋	18.4m	1.7m	不明	2023	Ⅲ

6. 長寿命化修繕計画による効果

計画的に予防的な補修を行うことで維持管理修繕費用が縮減できます。事後保全と予防保全で試算し、比較した結果約 1 割のコスト縮減が見込まれ、横断歩道橋の長寿命化を図ることで、ライフサイクルコスト(LCC)が縮減できます。

また、年度毎の維持管理費用を平準化させることで、財政に集中的な負担をかけません。

7. 新技術の活用

令和 10 年度までに管理する横断歩道橋 1 橋の修繕工事において、新技術を活用することで、従来技術を活用した場合と比較して 0.5 百万円のコスト縮減を目指します。

8. フォローアップ

本修繕方針は、定期的実施している点検等の結果に基づき適宜見直しを行なう「PDCA 型のマネジメントサイクル」により、適切なフォローアップを行ないます。

9.撤去

集約化・撤去の検討を行った結果、管理する施設は交通量が多い路線に架かる歩道橋であり通学路としても指定されており、安全な通学路を確保する観点から集約化・撤去を行うことが困難である。周辺の状況や施設の利用状況を踏まえて、再度検討を行います。

10. 対策内容と実施時期

No	橋梁名	所在地	橋種	橋長	幅員	架設年度	点検年度	次回点検年度	診断区分	対策内容	対策時期
1	つくも横断歩道橋	つくも町	鋼橋	18.4m	1.7m	不明	2023	2028	Ⅲ	修繕	R7～R9